

いのちのたび



〒805-0071 北九州市八幡東区東田二丁目4番1号
Tel 681-1011 Fax 661-7503
HP <https://www.kmnh.jp/>
発行：いのちのたび博物館 ミュージアムティーチャー

企画展「わくわくタイムトラベル いま・むかし」

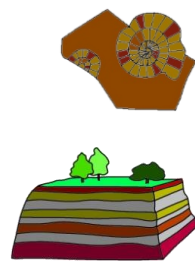
現在、博物館では、企画展「わくわくタイムトラベル いま・むかし」として50年前、100年前の子どもの1日を中心に、生活にまつわる道具の展示をしています。学校で使った道具など、みんなに身近な道具の、昔の姿を見ることが出来ます。2部屋を見比べると変化の様子も分かります。ぜひ、ご覧下さい。



小学校第6学年 理科「土地のつくりと変化」出前授業の申込みについて

いのちのたび博物館では、小学校6年生の理科「土地のつくりと変化」の学習支援を実施しています。当館の実験器具や資料を使って、博物館ならではの体験を伴った学習を展開することが出来ます。来年度の出前授業を下記の要領で募集しますので、ご案内いたします。ぜひご検討の程よろしくお願いたします。

- 申込期間：令和4年4月1日(金)～15日(金)17:00必着
- 決定方法：抽選(十数校を予定しています。)※先着ではありません。
- 申込方法：専用申込書(メールにて配信)に必要な事項を記入の上、博物館へFAX(661-7503)にて送信してください。



ミュージアムのタネ



さて今回は、小学校3年生の社会科の教科書に出てくる「かわる道具とくらし」のお話だよ。中西博士(産業・技術・建築史担当)の詳しい内容を読んで、教科書の理解を深めてね♪

皆さんのおじいさん、おばあさんが生まれ育った頃(50~70年前)、門司・小倉・若松・八幡・戸畑など現在の北九州地域には、海に面してたくさんの工場が建ち並んでいました。また、近くには石炭を掘り出す炭鉱がたくさんありました。石炭は鉄をつくる材料や燃料になりました。掘り出した石炭は鉄道で若松や門司の港まで運び、そこから船で積み出していました。北九州の工場や炭鉱は、産業の発展や戦争からの復興に大きな役割を果たしました。

工場や炭鉱、そして鉄道や港ではたくさんの人たちが働いていました。北九州地域の外からやってきた人も多く、彼らのために社宅と呼ばれる共同住宅が建てられました。いのちのたび博物館では、約60年前の八幡製鐵所の社宅の生活を復元し紹介しています。

復元された社宅は、木造の建物で、六畳と四畳半の押入れ付きの部屋があり、玄関、台所・便所を組み合わせた間取りとなっています。表向きの六畳の部屋は縁側が付き、物干のある庭に面しています。家族が食事をするちゃぶ台、子どもの学習机、たんすなどがあります。この頃はまだテレビがなく、ラジオを聴いている生活という設定となっています。奥向きの四畳半の部屋は寝床を兼ねていました。家具が所狭しと並んでいました。右手の台所から裏庭に出る勝手口がありました。

当時の台所は土間でした。水道設備はありましたが、ガス管は開通しておらず、くど(かまど)や七輪を使って調理・炊事をしていました。多くの家には風呂の設備がなく、家族は共同浴場に行き入浴していました。昭和30年代になると、この家のように、裏庭に小屋を増築し風呂桶を据える家が増えてきました。

当時の社宅は、今の皆さんの住まいとずいぶん違っていると感じることでしょう。皆さんのくらしに近づくのは、今から30~50年程前に電化製品が登場するようになってからのことです。火事になる危険が高い木造平屋建ての社宅・共同住宅は姿を消し、鉄筋コンクリート造の共同住宅や団地に建て替えられました。新しい住宅には、水道・ガス設備を完備した台所と風呂場があり、ダイニングテーブルで食事を取り、居間でテレビをみて家族でだんらんする。お風呂の湯はガスで沸かすといったくらし方が広がりました。

